

株式会社アジクル / AJI-CLE Co., Ltd.

info@aji-cle.co.jp

<https://www.aji-cle.co.jp>

<https://www.aji-cle-oss.jp/>

2026 年 10 月 7 日

バングラデシュにおける地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）との 3 湛 4 落稲作農法のカーボン削減実証の協業について

株式会社アジクル（以下「当社」）は、包括業務提携先である現地財閥 UGI Group、マイクロファイナンス機関 ANTAR Society for Development（以下、ANTAR）とともに、10 月 6 日付にて、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の下で実施されている、バングラデシュにおける「稲の安全性と高栄養価に貢献する育種および水管理技術の開発」事業との間で、同事業が推進する稲作農法“3 湛 4 落農法”におけるカーボン削減効果に係る協同実証に関する MOU（合意覚書）の締結をいたしました。

弊社は、2023 年来、経済産業省による新興国 DX 等新規事業創造推進支援事業などの協力を得て、マイクロファイナンス機関との連携によるバングラデシュにおける農業を通じたカーボンニュートラル事業、データマネジメント事業に取り組んでおります。

同国の南西部では、地理的要因から土中に天然のヒ素など有毒元素の含有量が多い地域が存在し、当該地域では、水質が飲用、農業用に供するに十分な安全基準に合わず、食料安全保障、貧困撲滅の観点から対策を要する状況にあります。

本研究事業は、2022 年に開始され、育種、水管理、普及の観点から、安全な稲作、高栄養価のコメ生産、健康の質向上に取り組んでおります。

“3 湛 4 落農法”は、既存の間断灌水（AWD）農法に代わるもので、コメ中ヒ素濃度の低減効果を有する農法ですが、間断灌水農法において実証されているカーボン削減効果については、実証されてきませんでした。

そこで、弊社が本研究事業へ知見等を提供し、「3 湛 4 落農法におけるカーボン削減効果」の有無について協同実証を行うことで合意いたしました。

本協業は、3 湛 4 落農法に新たなカーボン削減効果を見出す可能性を有しており、所期する成果が得られた場合、農家における当該農法の導入意欲を更に引き出すことができ、一層の普及推進につながるものとして、期待されます。

本事業を通じて、日本・バングラデシュ間の産官学連携による研究開発、事業開発を通じた社会課題解決を推進いたします。

引き続き、弊社は、パートナーである UGI Group、ANTAR との包括提携の下で事業展開して参ります。

以上（次頁に概要を掲載）

株式会社アジクル / AJI-CLE Co., Ltd.

info@aji-cle.co.jp

<https://www.aji-cle.co.jp>

<https://www.aji-cle-oss.jp/>

【協同実証概要】

実施時期	2026-27 年 Boro 期（2026 年 12 月～2027 年 5 月、乾季作）
実施地域	ジョソール県、並びにマイメンシン県（バングラデシュ農業大学試験場）
弊社担当	アジクル（事業体制構築・管理支援、助言等） ANTAR（スタッフ教育、管理支援、助言等） UGI（各種調整支援）

【研究事業概要】

事業名称	稲の安全性と高栄養価に貢献する育種および水管理技術の開発 “The Project for Development of Breeding and Water Management Technologies for Safe and Nutritious Rice Production (SANRICE)”
研究プログラム	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）
連携・支援先	独立行政法人国際協力機構（JICA）、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
実証期間	2022 年 8 月～2027 年 8 月
研究機関等	東京大学、農業・食品産業技術総合研究機構（NARO）、秋田県立大学 バングラデシュ農業大学（BAU）、バングラデシュ稲研究所（BRRI）、バングラデシュ原子力農業研究所（BINA）、バングラデシュ人民共和国農業省農業普及局（DAE, MoA）、Laltee Seed Limited.
関連 SDGs	 

外部リンク

SATREPS (https://www.jst.go.jp/global/kadai/r0307_bangladesh.html)



（L to R, 中村乾・農研機構上級研究員、神谷岳洋・東京大学准教授、Md. Emranul Huq Chowdhury・ANTAR 特別顧問、弊社代表渡辺、Prof. Dr. Md. Rafiqul Islam Sarder・BAU 副学長、Dr. Md. Rafiqul Islam・BAU 土壌科学部教授）